

## 瀬戸内国際芸術祭2016 北川フラムさん（総合ディレクター）と交流会 夏以降も盛り上げたい ボランティア務めた玉野、玉野商、光南高生 直接 お礼受け一層の励みに

／掲載日：2016年05月25日／紙面：山陽新聞朝刊／掲載：26ページ／

「瀬戸内国際芸術祭」（瀬戸芸）の総合ディレクター北川フラムさんと、瀬戸芸2016春会期にボランティアスタッフとして参加した玉野、玉野商業、光南高の生徒との交流会が23日、玉野高で開かれた。北川さんから協力への感謝の言葉と瀬戸芸への思いを聞いた生徒たちは、活動で得た充実感をよみがえらせるとともに、夏会期以降も盛り上げの力になりたいとの思いを強めた。（岡本遥加）

3高の生徒約150人が瀬戸芸開幕日の3月20日、宇野港会場でボランティアスタッフとして活躍する姿を目にした北川さんが、生徒たちに直接礼を言いたいと要望したため市が企画。1～3年生計42人が参加し、北川さんが講話した。

北川さんは「高校生が主体的に頑張る姿に感激した。ありがとうを伝えたい」とあいさつ。瀬戸芸の狙いを「建築や美術を通して、島住民の生活や生きる工夫などを来場者に知ってほしい」と説明した。「食」がテーマのプロジェクトについては「地域の特徴を最も表すのが『食』。せっかく来たのだから、土地の食材を味わってもらいたい」との思いを述べた。

質疑応答もあり、生徒は瀬戸芸関連のほか、地元高校生が企画運営に携わる宇野港での恒例イベント「UNOICHI 海が見える港のマルシェ」を取り上げ「瀬戸芸のように多くの人に興味を持ってもらうにはどうすればいいか」と質問。北川さんは「おしゃれな雰囲気を出すことが大切。若い女性の興味を引くことが集客につながる」とアドバイスした。

玉野高1年瀬良みゆきさん（15）は「春会期は通訳のボランティアをした。交流会は夏会期以降も頑張ろうという励みになった」、玉野商業高2年広田健哉さん（17）は「作品の意味を一つ一つ考えるきっかけになった」、光南高3年今田綾音さん（17）は「芸術が好きなので、北川さんの考えを直接聞けてうれしい」と話した。

春会期中（4月17日まで）、3高の生徒計約150人がボランティアスタッフとして作品紹介、会場案内、来場者アンケートなどに当たった。夏会期は7月18日に始まる。

【写真説明】北川さん（右）の話を熱心に聴く高校生（表示不可）